

カナの婚礼

ヨハネによる福音 2:1-11

(そのとき、) ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあった。いずれも二ないし三メートル入りのものである。イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。イエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで行った。世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかったので、花婿を呼んで、言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったところに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

説教

結婚の宴会、現代風にいえば結婚式の披露宴でぶどう酒が足りなくなり、そのピンチをイエスが水をぶどう酒に変えるという奇跡によって切り抜けた、というのがきょうの聖書箇所のあるすじです。

イエスはワインの醸造家？ワイン作りもやっていた。アレーっと思いますがきょうの福音でイエスはワインを作っています。

ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」ヨハネ2:3-4

母マリアからブドウ酒がなくなったと知らされたイエスは、アレコレいって気のないそぶりを見せますが、召使にはワイン作りの指示を与えてワインを作っています。イエスワインのおおきな特徴はブドウをつかわないことです。ブドウなしで極上ワインを作りだしています。ワイン好きなら是が非でもイエスさまのワインを味わってみたいものです。

このあいだ、ワインひと瓶飲み切れず、コルクで栓をして翌日いただいたところとても美味しくなっていてビックリしました。ワインも種類によってはデキャンタージュすると更においしくなるワインがあるそうです。ちょっと違和感のあるイエスと母のやり取りもイエス流のデキャンタージュなのかもしれせん。

イエスのワインを飲んでみたいなあと思っていたら、わたしたちは毎週イエスさまのワインを飲んでいたことに気付きました。聖餐の秘跡の中でイエスさまご自身の生涯を記念としてわたしたちはワインをいただいています。清めようの石の水がめや、かめに水を満たす召使や、なにも知らずに喜んでいる宴会の世話役、そして静かに召使に指示するマリアさま、きょうの聖餐はカナの奇跡をおもい起こしながら、救いのワインを味わっていただきましょう。
